

市場動向

新型コロナウイルスによる世界的な消費の低迷により畜産業界では、枝肉価格や個体販売価格が下落しています。その中で一際ここ最近の初生 F1 価格の落ち込みが目立ちます。10月7日の根室家畜市場では F1 オス平均価格 95,870 円、F1 メス平均価格 63,670 円と価格が低迷しています。

図 根室家畜市場1日の上場頭数を1ヵ月分平均（4回）したもの

		1年前(一ヵ月平均価格)	頭数(平均)		現在(一ヵ月平均価格)	頭数(平均)	騰落率
初生	ホルオス	76,047円	123	⇒	61,556円	137	-19.1%
初生	ホルメス	122,411円	30	⇒	183,765円	31	+50.1%
初生	F1オス	235,145円	115	⇒	104,842円	155	-55.4%
初生	F1メス	134,559円	73	⇒	73,245円	142	-45.5%
初生	和牛オス	497,224円	27	⇒	363,843円	28	-26.8%
初生	和牛メス	450,050円	16	⇒	340,911円	22	-24.2%
	ホル初妊	497,034円	26	⇒	554,251円	24	+11.5%
	廃用 ホル	167,112円	170	⇒	180,952円	171	+8.3%

一年前は初生ホルメスの平均価格が一時的に 10 万円を下回るなど通常と比べて、かなり安く取引されていた事を考えると平年の値段に戻ってきたのだと思います。しかしホルメスは後継に必要な頭数以上を生ませても免税されることなく販売するしかありません。また育成は保留してしまうと資産として税金も課税されます。そこで免税処置がある F1 や和牛が個体販売として有効とされています。

図を見て頂くと、初生 F1 の頭数が去年の今頃に比べると多くなっているのが分かります。この時期に聞かれていたのが「ホルメスも安いし、和牛も受精卵代と移植代をかけるなら F1 の方が良いよね」と良く言われていました。その結果として初生 F1 の頭数は去年と比べて、オスが3割程、メスでは2倍多くなっています。

今付けている物が来年の販売価格が高いとは限りません。今の価格が高い物をまとめて授精するのではなく、後継牛の確保を考えながらバランス良く授精や移植する事が個体販売の収入源を落とし難くするのだと思います。

太田